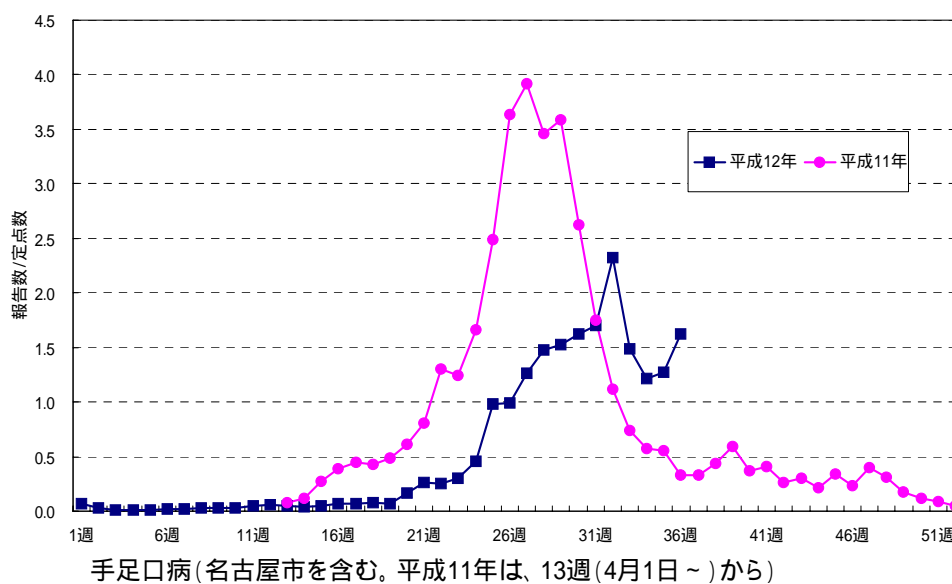


愛知県感染症情報

平成 12 年第 36 週（9 月第 1 週）

（コメント）

感染性胃腸炎に散発が見られます。手足口病は依然流行中です。3 類感染症（腸管出血性大腸菌感染症）の報告数が多くなっていますので注意してください。



（先生方からのコメント）

- 尾張西部地区
 - ・ 1 保育園の乳児組に伝染性紅斑小流行
（一宮市 後藤小児科）
 - ・ 病原性大腸菌感染者（O-1 2名（1歳男、4歳女）、O-18 8歳女、O-26 1歳男）
サルモネラ O-7
マイコプラズマ肺炎 2名
（尾西市 城後小児科）
 - ・ カンピロバクター 16歳男
（師勝町 師勝クリニック）
 - ・ 週の前半は水痘が目立ったが、後半は発生なし。
（新川町 三輪医院）
- 尾張東部地区
 - ・ 今週は再び手足口病が増加しました。（成人例：38歳男性は児よりの感染）

ヘルペス歯肉口内炎：1歳男（児が罹患後、父親にも罹患）

伝染性紅斑：4歳男

流行性耳下腺炎：家族内発症あり（弟 姉 母親）

（尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院）

- ・ 先週末から感染性腸炎ロタ（+）大流行か？
（美浜町 愛知県厚生農業組合連合会知多厚生病院）
- ・ 1歳のカンピロバクター腸炎例
（春日井市 朝宮こどもクリニック）
- ・ ヘルパンギーナ再び流行のきざしあり
（小牧市 小牧市民病院）

● 西三河地区

- ・ 病原性大腸菌 O-1 2歳男
カンピロバクター 6歳男
（岡崎市 花田こどもクリニック）
- ・ カンピロバクター、病原大腸菌 O-1 5ヶ月女
サルモネラ O-9 4歳女
（岡崎市 医療法人川島小児科水野医院）
- ・ 帯状疱疹 4歳男
（幸田町 とみた小児科）
- ・ 4ヶ月の水痘は、とびひを合併し、全身に紅斑が出現。
（西尾市 やすい小児科）

● 東三河地区

- ・ 新学期が始って再び手足口病が増加傾向です。
（豊橋市 あずまだこどもクリニック）
- ・ 川崎病2名（1歳3ヶ月男 1歳4ヶ月女）
（豊橋市 こどもの国大谷小児科）

（1～3類感染症の発生状況）

腸管出血性大腸菌感染症患者6名

- ・ 半田保健所から報告の62歳女 8/29発病、8/30初診、9/4診定。
菌型は、O-157 VT1・VT2（+）
- ・ 知多保健所から報告の11歳男 8/31発病、9/1初診、9/4診定。
菌型は、O-157 VT2（+）
- ・ 安城保健所から報告の1歳男 9/2発病、9/3初診、9/5診定。菌
型は、O-26 VT1（+）
- ・ 安城保健所から報告の4歳男 8/31発病、9/5初診、9/7診定。菌
型は、O-26 VT1（+）

- ・ 一宮保健所から報告の10歳男 9/3発病、9/5初診、9/8診定。菌型は、O-157 VT1・VT2(+)
- ・ 安城保健所から報告の6歳女 9/5発病、9/6初診、9/8診定。菌型は、O-26 VT1(+)

(全数把握の4類感染症の発生状況)

梅毒患者1名。

2000年7月28日号(75巻30号)

ポリオ根絶計画。WHOヨ-ロッパ地区51カ国(注:WHO欧州地区は西欧からロシア、中央アジア諸国までを担当)の99年における状況。対象地区のうち38カ国(主として東欧と中央アジア)が生ポリオワクチン単独、西欧7カ国が不活化ワクチン単独、同6カ国が不活化-生ワクチンの組合せで実施。旧ソ連圏の中央アジア数カ国を除き定期接種率は90%以上であり、アフガニスタンやイランなどポリオ発生WHO東地中海地区と隣接している主として中央アジア諸国では東地中海地区と同季節に地域的重点接種が地区小児の90%以上において実施されている。ポリオ様急性弛緩性麻痺患者の届出数は99年以降全地域から週単位で報告されていて、これら患者のウイルス学的検査は中央アジア地区の9カ国以外はほぼ全例実施されている。98年における野生株ポリオ患者発生はトルコを中心に中央アジア諸国において認められている。

オンコセルカ症とリンパ系フィラリア感染症の対策に関する調査研究:2000年9月の国際会議でアフリカ諸国を中心とした地域レベルのフィラリア感染症の予防と治療に関する国際協力プロジェクトが討議される。その主な主題の紹介。

インフルエンザ:2000年7月。チリ、イスラエル、パラグアイ。A型。

7月21日-27日届出。コレラ:スリランカ、シンガポール。黄熱:ブラジル。

2000年8月4日号(75巻31号)

世界のコレラ。1999年。世界的なコレラの最新情報。世界地図。99年には61カ国から254,310例の届出(前年比13%減)。死亡率は3.6%と不変。アフリカ地区が症例数206,746例(世界の81%)、死亡率4.2%と最大でアジア地区が39,417例(前年比61%増)となっている。多発国としてはアフリカではモザンビーク、マラウィ、ナイジェリア、ソマリア、コンゴ、タンザニア、南北アメリカではブラジル、グアテマラ、ペルー、アジアではアフガニスタン、中国、インド、イラン、イラクが目立っている。一方、地図上では未報告とか報告ゼロの国(例:タイ、インドネシア、ミャンマー、アフリカ諸国)も目立っている。各地域についての概略とワクチン開発の現況を紹介(現在3種類の経口ワクチンが開発され野外接種試験と評価がされ経口不活化ワクチンのWC/rBS株が流行地におけるワクチンとして検討されている)。

インフルエンザ:2000年7月。オーストラリア(A型)、ブラジル(AH1N1、AH3N2、B型)、香港(AH3N2型)、ニュージーランド(A型)。

7月28日-8月3日届出。コレラ:ジブチ。

例年になく酷暑の毎日が峠をこして夕方の病院の中庭では虫の声が聞こえるようになりました。いつも貴重な情報を有難うございます。8月後半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：ヘルパンギ-ナと手足口病が相変わらず流行中ですが大流行というほどの発生ではないようです。発熱が持続したり口内疹がひどくて、摂食障害から脱水をおこして点滴や入院が必要な例も目立ちますが特に例年以上の重症化の傾向はないようです。無菌性髄膜炎の入院例も目立っていますが例年より多発しているとか脳炎合併例が多いというような情報はいただいていません(名鉄病院宮津先生；手足口病やや増加、第一日赤有吉先生；無菌性髄膜炎目立つ、城北病院渡辺先生；ウイルス未同定の典型的な脳炎例あり、中京病院柴田先生；無菌性髄膜炎散発中、労災病院伊藤先生；手足口病散発中でヘルパンギ-ナの小流行持続)。前報同様、外国からの重症の手足口病などの輸入報告も届いていません。発熱を伴う夏カゼ(千種区今枝先生)、ムンプスとムンプス髄膜炎(名鉄・宮津先生；峠をこえたようです、第一日赤有吉先生)、重症帯状疱疹の入院例(三菱病院岩間先生)、マイコプラズマ肺炎・気管支炎増加(名鉄・宮津先生)、仮性クレーブ(千種区今枝先生)。ヘルペス性歯肉口内炎(労災・伊藤先生)、伝染性膿痂疹やブ菌性火傷様皮膚症候群(労災・伊藤先生、第一日赤有吉先生)などの報告をいただきました。感染性胃腸炎(千種区今枝先生、城北・渡辺先生)、細菌性腸炎(三菱・岩間先生；大腸菌O-166、169、労災・伊藤先生；大腸菌O-6、55、カンピロバクター)などのお手紙や乳児の百日咳入院例(三菱・岩間先生)、川崎病の入院(中京・柴田先生)などの情報もいただきました。相変わらず麻疹の散発が続いています(第一日赤有吉先生)。新学期とともに流行しないか、注意したく思います。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からは手足口病やムンプスがやや多くサルモネラ腸炎3例と病原性大腸菌腸炎3例、常滑市民病院肥田先生からは手足口病が多くムンプス散発中、T市ガールスカウトの大腸菌O-157発生あり、半田市立病院中島先生からは特に目立った感染症の流行はないとのお手紙でした。

3. 三河地区：加茂病院大須賀先生からは麻疹と百日咳が時々あり(感染源は病院?)、マイコプラズマ肺炎の入院と百日咳の入院目立つ、トヨタ病院木戸先生からは全体に患者数は減少、髄膜炎も減ってきた、安城更生病院小川先生からは麻疹(母子の入院例あり、母親のワクチン歴なし)、手足口病が目立つ、知立市近藤先生からは病原性大腸菌O-1感染症2例、手足口病がやや多く、百日咳2例、刈谷市田和先生からは感染性胃腸炎ぼつぼつあり(サルモネラ陽性例あり)、手足口病と伝染性紅斑散発中、碧南市永井先生からはムンプス、水痘、手足口病が散発、サルモネラ腸炎(特にO4)が目立つ、豊橋市宮澤先生からは突発疹、手足口病などが目立つとのお手紙でした。有難うございました。